

第3回 鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画 策定委員会（会議録）

○日 時： 令和6年2月8日（木） 13時30分～15時00分

○場 所： 鶴岡市役所 6階 大会議室

○出席委員： 上野 雅史 委員長、阿部 真一 委員、廣瀬 大治 委員、國井 英夫 委員、
尾川 勝則 委員、鈴木 俊将 委員、佐藤 菜々子 委員、岡部 浩美 委員、
本間 豊 委員、五十嵐 久廣 委員

○欠席委員： ミヨ サラ ラッシュェル 委員、三浦 明弓 委員、鈴木 小枝 委員

○オブザーバー：

経済産業省東北経済産業局 産業部商業・流通サービス産業課長 成田 早霧 氏

国土交通省東北地方整備局 建政部都市・住宅整備課長 大泉 隆是 氏

（代理出席）建設専門官 渡辺 央 氏

独立行政法人中小企業基盤整備機構 高度化事業部まちづくり推進室長 林 伸次 氏

（代理出席）専門職員 安達 富夫 氏

独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部まちづくり支援部長 鈴木 孝弘 氏

○アドバイザー： 早稲田大学 教授 矢口 哲也 氏

○事務局： 鶴岡商工会議所専務理事、企画部長、商工観光部長、建設部長、教育部長、企画
部政策企画課長、企画部地域振興課長、商工観光部商工課長、商工観光部商工課
商工企画主幹、商工観光部観光物産課長、建設部都市計画課長、教育委員会社会
教育課長、鶴岡商工会議所経営支援課長、鶴岡商工会議所総務企画課企画係長、
鶴岡商工会議所経営支援課経営指導員主任、商工観光部商工課中小企業振興主査、
商工観光部観光物産課課長補佐、建設部都市計画課管理主査、建設部都市計画課
都市計画係長、建設部都市計画課都市計画専門員、建設部都市計画課専門員（都
市計画係）、建設部都市計画課主事（都市計画係）2名

○公開非公開： 公開

○傍聴者： なし

○次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報 告

（1）中心市街地将来ビジョン中間案に関する意見聴取・意見募集の経過と結果について

4. 協 議

（1）中心市街地将来ビジョン最終案について

（2）その他

5. その他

（1）今後のスケジュールについて

6. 閉会

○会議概要

1. 開 会

2. あいさつ

《委員長》

- ・本日は第3回鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会にご出席いただき感謝申し上げます。
- ・策定委員会はこれまで2回開催しており、第1回ではありたいまちの将来の姿や果たしていくべき役割についてご議論いただき、第2回では中心市街地将来ビジョンの中間案について委員の皆様からご意見をいただきました。ビジョンの策定に関しては今回が最終回となるので、本日はビジョンの最終案をお諮りする。
- ・第2回策定委員会以降、事務局ではビジョン中間案の展示やホームページなどを通して、小中学生をはじめ広く市民の方から様々なご意見を頂戴している。
- ・今回の策定委員会での合意を得てビジョンを完成させたいということであり、市民・事業者・行政の共通認識となる、概ね15年先の中心市街地のありたいまちのランドデザインを作っていきたい。
- ・協議のテーマとして、にぎわい、居場所、観光、居住、移動という五つを提示しているが、皆様から忌憚のないご意見をいただき、ビジョンに次のステップとなる中心市街地活性化基本計画の策定につなげて参りたい。

3. 報 告

- (1) 中心市街地将来ビジョン中間案に関する意見聴取・意見募集の経過と結果について
… 事務局より、資料1-1、1-2、1-3、1-4について説明。…

《事務局》

- ・ただいまの報告について、質問があればいただきたい。(質問なし)

4. 協 議 (議長：委員長)

- (1) 中心市街地将来ビジョン最終案について

《委員長》

- ・それでは中心市街地将来ビジョンの最終案について、事務局より説明いただく。

《事務局》

- … 事務局より、資料2-1、2-2、2-3、資料3について説明。…

《委員長》

- ・資料2-2にある「ありたいまちの将来の姿」と「まちづくりの方針」までは前回中間案としてお示ししたが、今回は「想定する取組例」も提示しているので、委員の皆様からご意見をいただきたい。

《委員①》

- ・資料2-2の想定する取組例で、賑わい・居場所・観光・居住・移動の5つに領域分けしてあるが、鶴岡市がこれまでのまちづくりの中で一番大切にしてきたのは、景観に配慮してきたことだと思う。
- ・具体的には、説明の中で「山当て」という言葉があったが、いろいろな通りからも金峯山

が眺められる、そういった景観に配慮してきた土地柄である。これまで努力してきたところがやや薄いと感じた。

- ・想定する取組例の⑤移動に関して、市内循環バスについては市内交通のご努力のおかげで非常に充実してきた。一方で、夜間や深夜帯に使える車両がないという実情があるので、ハイヤーやタクシーという言葉を入れてはどうか。鶴岡市でも2種免許の取得について助成している。人口減少が進む中で運転手不足ともなっており、そういった取り組みを連動させて進めていくことがいいのかなと思う。

《委員長》

- ・ただいまの委員のご意見に関連して、皆様からもご意見をいただきたい。

《委員②》

- ・景観について別の視点から感じていることだが、危険家屋や管理不適切な空き家が放置されてるのが散見される。これも広い意味では景観を明らかに害していると言えるので、これらの除去や是正についても景観に関連して盛り込んでどうか。
- ・山当て景観に関連して、中心市街地においては高い建物を建てないようにしてきたという背景はあるが、例えばエリアを絞って高さ制限を緩和するという事は、山当て景観とは多分両立すると思う。ただ、山当て景観については、皆さんが無意識のうちに意識しているということは強く感じるし、なし崩し的に高さ規制を緩和することは、どちらかといえば反対の考えである。

《委員長》

- ・お二人からご意見のあった景観に関する事について、ビジョンの最終案ではどの辺で配慮しているか、事務局の説明をお願いします。

《事務局》

- ・景観については、市と商工会議所による検討会議の中でも、これまで取り組みを積み重ねてきた経過について反映させたほうがいいのかという意見があり、まちづくりの方針に「良好な景観を維持し」を書き加えた。
- ・また、想定する取組例には高度地区規制の検証については具体的に記載しているが、これ以外にも景観を守る取り組みは行っていく必要があると考えている。
- ・移動に関して、公共交通利用の部分で、市内循環バスだけではなくハイヤーやタクシーという言葉を入れてはどうかということについては、想定する取組例の中の主要な取組の記載を「市内循環バスを核とした公共交通の利用促進」として、少し幅を持たせている。

《委員③》

- ・交通に関しては、少し歴史を振り返ってみる必要があると思う。規制緩和により代行業が届出制になり、業として行う人が増えた。一方で、地域のハイヤー会社、タクシー会社は、夜間の顧客運送が代行業に流れたことにより経営として大変になった。その結果として運転手不足も発生しており、政策としては大きな間違いだったと思う。その代行業も、ここ3～4年間に新型コロナの影響を受けて姿を消している。
- ・これからライドシェアが試験的に実施される。一般ドライバーが自分の車を使って有償でお客を運ぶことができ、一見非常にいいように見えるが、これも業界の混乱が大きくなる懸念がある。大都市や政令指定都市であれば競争相手が多くなっても利用者の需要があるので循環するが、田舎のタクシー会社などは、どこも余裕を持って経営しているところはないので、姿を消さざるを得なくなるかもしれない。新しい需要を喚起する必要があるが、その調整は行政が担うのだろうと思う。
- ・ハイヤーやタクシーを言葉として入れるよりは、交通に関しては需要と供給で決まっていくということはある程度認めるということではないか。

《委員長》

- ・交通事業も商売として採算が合わなければ持続可能とは言えないので、この辺りは難しいところだと思う。
- ・ハイヤーやタクシーについては「公共交通等」に含まれているという理解でいきたい。

《委員④》

- ・景観については、遠目から見た時の広い景観と、すぐ近くにある景観の二通りがあり、それぞれもたらす効果が違う。鶴岡市では遠目に見た時の山当ての景観をしっかり残そうというまちづくりをしてきたが、それが市民に対してどれだけの効果があったのか検証がなされていれば伺いたい。それが今後我々の世代や子どもたちの世代にとって必要なのかどうかを検証する必要があるのではないのか、というのがひとつ。
- ・もうひとつ、近くにある景観では、空き家などの見た目が悪いものに関しては早急に解決しなければならないと思っているし、そこに住みたいと思うかどうかでは、山が見えるかどうかよりも喫緊の課題。景観という一つのワードにまとめられているが、遠くの景観と近くの景観については、具体的な取り組みのなかでも分けて考えていく必要がある。
- ・ライドシェアに関しては、需要と供給に合わせていく必要があるということについては賛同するところ。これまで公共交通が担ってきたから今後はずっとお願いするというのは無理があるので、国が示す指針を踏まえて、地元では住民に合わせた線引きを行政が行ったうえで事業者にしっかりと伝え、それをみんなで利用していくという形が夜間を含めた移動に関しては重要になってくると思う。
- ・また、インバウンドで訪れる人は移動手段の利用方法が市民とは異なると思うので、誰がどう使うと便利か、パターン分けをして提示していくなど、しっかりと具体化していくことが必要だと思う。

《委員長》

- ・景観について、遠目の景観、近くの景観というご意見をいただいた。空き家の問題に関連する環境整備などは、中心市街地活性化基本計画に盛り込んでいく必要があると思う。
- ・ほかにご意見ございませんか。（意見なし）
- ・次に、資料3のキャッチフレーズ最終案について議論を進めたい。事務局が提案したキャッチフレーズ「できる うみだす あなたのまちなか」について、率直なご意見をお聞かせ願いたい。

《委員⑤》

- ・「あなたのまちなか」だと自分事とは思えないと感じたが、「わたしの」ではなく「あなたの」とした理由を伺いたい。

《委員長》

- ・その辺が議論のポイントになると思っている。他の委員からも率直な感想やご意見を伺いたいのがいかがか。

《委員⑥》

- ・今のご意見については、言われてみたら確かにそうだというように感じる。
- ・私は、委員として携わらせていただくようになって初めてまちのことを考えるようになった。これまでは義務感で携わることが多いように感じており、それは私たちの世代感としてもそうなんじゃないかという感じがしている。
- ・確かに「わたしのまちなか」の方が、これからは自主的に主体的に、自発的に作っていくという、ポジティブに関わっていくという感じはするかなと思った。

《委員⑦》

- ・私も言われてみるとそういう気はするが、「わたしの」は「あなたの」よりは小さくなってしまふようなイメージがある。資料2-3の下段にキャッチフレーズ検討の要件の記載

があるが、市民に訴えていく、特に子どもや高校生世代に訴えかけていくという意味では、「あなたのまちなか」でも悪くはないのかなとは思う。

《委員長》

- ・事務局の考えについて説明をお願いします。

《事務局》

- ・事務局の中でも、この点に関してはとても時間を要した。キャッチフレーズを何のために作るのかについては先ほどお話したが、このビジョンは市民・事業者・行政の共通認識とすることを策定の目的としており、キャッチフレーズを見て、自分のまちのことを考えてもらう、まちに対して行動を起こしてもらう、そういう入口になったらいいなという想いで考えた。
- ・なぜ「あなたの」としたかについては、「あなた」という言葉には市民一人ひとりに行動を起こしていただきたい、そして直接まちに影響を与えていただきたいということと、さらにはシビックプライドということも意識した。
- ・また、このキャッチフレーズはビジョンと一緒に外に出ていくものとなる。行政や商工会議所で検討し、策定委員会でご議論いただき作り上げていくが、「わたしの」とすると、市民一人ひとりの自分事というニュアンスが失われてしまうと考えた。他にも「あなたたちの」や「わたしたちの」という候補もあったが、事務局では「あなたの」とすることで落ち着いた。様々なご意見を頂戴したい。

《委員長》

- ・他にご意見はございませんか。

《委員②》

- ・事務局から説明があったように、何かを外側に情報発信していくのであったら「あなたの」と言うことはそんなに違和感がなく、個人的には突き放してる感じも受けない。
- ・ただ、どうしても「わたしの」だと少し内向きになりそうだというのであれば、例えば「みんなの」とすれば、ビジョン検討に関わった人も、そうでない人も全部含まれるのではないかというのは考えられる。
- ・「できる」「うみだす」と二つ続いていて、まちなかができることを生み出すともとれるし、ひとつの文章としても捉えられるので、練ってある良いコピーだなと思ったのが最初の印象。

《委員⑧》

- ・誰が主役なのかが一番大事なことだと思う。ここでやっている人たちだけだったら「あなた」なのかもしれないし、でも市民に提示するものであれば「みんな」というのもいいのかなという感じがした。
- ・あくまで感想としてだが、「うみだす」という言葉はすごくインパクト強いが、苦しいような感じを受ける。

《委員③》

- ・資料1-4で、多極ネットワーク型まちづくりを目指して持続可能な将来都市構造としていくとある。合併した時の旧町村の役場を中心としたエリアを想定して拠点としているのだと思うが、ほかにも、温泉や鼠ヶ関の道の駅など、行政単位以外も地域拠点として記載されている。
- ・市民が受ける印象としては、「あなた」というのは市民一人ひとりがこの中に皆含まれるということだと思うので、「あなたのまちなか」という表現は非常に適切な言葉遣いだし、これ以上の表現はなかなか難しいかなと思う。

《委員⑨》

- ・私は「あなたのまちなか」がいいのではないかと思います。「あなたの」には「みんなの」という意味も含まれるように思うし、なかなか良いキャッチフレーズだと思う。

《委員長》

- ・アドバイザーに助言をお願いしたい。

《アドバイザー》

- ・キャッチフレーズを考えるときに、例えばこれがまちなかに掲げられていて、それを読んだときに、これいいなという言葉の選び方でいいのではないかな。私も「あなたの」でもいいかなと思う。
- ・まちなかに掲げられている「できる うみだす あなたのまちなか」を自分が読んだとしたら、僕のまちなか、私のまちなかという風に読み替えると思う。キャッチフレーズが使われてるシーンをイメージしながら判断していただくのがいいのではないかな。

《委員長》

- ・オブザーバーの皆さまからもご意見をお願いしたい。

《オブザーバー①》

- ・中心市街地活性化に関する将来ビジョンにキャッチフレーズがあるということが非常に素晴らしいと感じている。
- ・委員の皆さまのご意見を聞きながら、ひとつひとつなるほどというふうに思った。個人的な感想としては、確かにこのキャッチフレーズを使うシーンを想像したときに、「あなたのまちなか」というフレーズも悪くはないと感じた。

《オブザーバー②》

- ・このようにキャッチフレーズを使って中心市街地活性化の活動をされるのが先進的だと思います。
- ・文字数に制限があり言い方は非常に難しいだろうとは思いますが、個人的には「あなたの」でもいいのかなと思う。関係する方みんなを含んで「あなたの」としているという理解の仕方もできると思うので、事務局で意見を整理していただいて、素晴らしいキャッチフレーズを作っていただければと思う。

《オブザーバー③》

- ・キャッチフレーズ以外も含めて発言させていただく。
- ・キャッチフレーズは最終的には皆さんの議論により決めていただければと思うが、私も最初は「わたしの」がいいかなと思った。市民の皆さんが自分事としてまちづくり取り組むということなので、「あなたの」とすると、どうしても他人事だと思う人が多くなってくると感じた。
- ・資料2-2、①賑わいの主要な取組にあるエリアマネジメントという言葉について、先日セミナーをさせていただいたが、少し違う方向でエリアマネジメントという言葉が使われていると考えている。ここでは「エリアマネジメント活動」という言葉は使わずに、④居住にある記載と同じく「仕組みの構築」とした方がより適切だと思う。
- ・エリアマネジメントについては、150ヘクタールある中心市街地を一気にエリアマネジメントで色々なことをやっていくということではできないので、その中の特定のエリアにおいて、役割・機能、歴史・文化、拠点施設、自然環境などでゾーニングを行って、マネジメントにより課題を解消していくという形になる。しっかりPDCAを回すような仕組みを作り上げていって、多様な人が関わり合いながら、しっかりと課題に向き合っていく、そのコントロールをしていくのもエリアマネジメントの一つでもある。
- ・このビジョンを策定した後は、どこかのタイミングでビジョンの見直しやチェックをするのか。その点はビジョンに記載しなくてもいいのかな。

《委員長》

- ・今お話があったエリアマネジメントについては後程議論させていただきたい。
- ・キャッチフレーズについて、引き続きオブザーバーよりご意見を頂きたい。

《オブザーバー④》

- ・個人的な感想になるが、誰に伝えるのかということを考えながら拝聴していた。アドバイザーからあったように、どんな使われ方していくのかを考えた時に、「わたしの」が併用されていていいかなと思った。
- ・キャッチフレーズを市民へ周知していく段階では「あなたの」という使い方でもいいと思うし、実際に自分事として活動した人がその活動を外に出す時には「わたしの」を使う、まちなかでそういうとこが増えていくと楽しいのではないかと考えた。
- ・例えば、まちなかで初めて平日の夜にヨガのレッスンができるようになった、とか、まちなかで初めて地産地消の、でも、フランス料理でもイタリア料理でもないちょっと変わった料理を出す店ができたとか、そんなことがあったとしたら「できる うみだす わたしのまちなか」として、わたしがやりましたということをアピールできるのではないかな。徐々に市民に浸透していくと、いつの間にか「あなたの」が「わたしの」になっていくというようなことが起きたら素敵なのではないかな。

《委員長》

- ・一通り皆さんのご意見を伺った。
- ・皆さんのご意見を聞くと、「あなたの」という表現でもいいのではないかなというご意見もかなりあったと思うが、さらにご意見を伺いたい。

《委員⑤》

- ・私は、市役所の外壁の看板に書いてあるようなイメージが最初に思い浮かび、それだと市役所の人が市民に頼んでるような感じがするのではないかなと思った。ただ、皆さんのお話を聞いて、「あなたの」というのももちろんありだなと思ったし、先ほどオブザーバーがおっしゃった、「あなた」がいずれ「わたし」になっていくというのはいい発想だと思った。事務局にお任せしたいと思う。

《委員長》

- ・最初は「あなたの」というところから始まって、だんだん自分事として実現してくると「わたしの」となっていく、そういうふうになったらいいなという思いを非常に強くした。
- ・キャッチフレーズは事務局案のとおり「できる うみだす あなたのまちなか」としたいがよろしいか。（全員賛成）
- ・ご賛同いただいたので、キャッチフレーズを「できる うみだす あなたのまちなか」として進めさせていただきたい。

《委員長》

- ・先ほどご意見があったエリアマネジメントについて、事務局の考えはどうか。

《事務局》

- ・エリアマネジメント活動とは、地域の課題を解決する、あるいは地域資源を活用していくことで特定のエリアの価値を高めていく活動であると事務局としては認識している。
- ・その上で、五つの項目のどこの課題に対してこの言葉を使い、主要な取り組みとして設定して事業として強く進めていきたいかということは事務局でも相当議論があったところ。まちづくりの方針にある「通り・広場・店舗」といった場所にもっと魅力的な企業や店舗等の進出を誘導する、一定の「通り」に対しての価値を高めていきたいとの考えで、①賑わいの項目でエリアマネジメント活動という言葉を使った。

《オブザーバー③》

- ・ エリアマネジメントの広義の概念として、簡単な例では、居住ということでは町内会が挙げられる。町内会の皆さんは自分の居住環境を良くするために清掃活動を行っているが、それは地域の価値を上げるために行っている。自分たちが住みやすい街を作るということもエリアマネジメントのひとつだし、観光ではDMOとしてやっていることもマネジメントのひとつ。
- ・ 居場所をつくることや、いろいろなことを創り出していく作業は「賑わい」という一つの項目だけに留まらない。ビジョンの中にエリアマネジメントという言葉を使いたいというのは理解するが、ここではあえて使わなくてもいいと思う。
- ・ 先に策定されている鶴岡駅前地区将来ビジョンを例にすると、推進していく中でハブとなって活動する方がエリアマネジメントの組織体となり、そのハブの中に多様な方が入ってきて、そのエリアの中で自分たちのやりたいことをしっかりやって価値を上げていく、このことがエリアマネジメントである。この「賑わい」の部分だけを切り取ってエリアマネジメントということにするのではなく、エリアの中の「面」に関して作っていく必要があるということを説明させていただいた。

《委員④》。

- ・ エリアマネジメントに関して少し違う視点での意見だが、資料1-1中間案へのご意見まとめでも、わかりやすい言葉を使って欲しいという市民からの意見があったと思う。そういう視点に立ってみると、エリアマネジメント活動とは何かということになってくる。少なくともこの委員会に出ている私ですらエリアマネジメント活動とは何だろうとなっている状態なので、市民の皆さんにとってもわかりやすいとは言いきれない。
- ・ ただ、エリアマネジメント活動というものが概念的にも手法的にもいいものということはないと思うので、ここでは「仕組みの構築」というワードにしておいて、そこに内包される手法の一つとしてエリアマネジメント活動を据えるというような形だとスマートにいくのではないかと考えた。

《委員長》

- ・ ただ今いただいたエリアマネジメントに関するご意見については、事務局で最終案に盛り込んでいただきたい。
- ・ 他に全体を通して何かご意見等があればいただきたい。

《オブザーバー③》

- ・ 資料4の4ページから5ページに記載されている国における支援制度について、制度ができた順番で整理するといいいのではいか。また、国の制度としては河川空間も活用できるものがあるので追加したほうがよい。
- ・ 資料4の14ページの真ん中から下、取得サンプルの属性というところで、国勢調査との比較のため注意が必要との記載があるが、これは住んでる方とまちに来て活動されている方の違いがあるので、ここを比較して特に何かに注意する必要はないかなと思う。

《委員長》

- ・ ただ今の件については、事務局で調整してください。
- ・ ビジョンについて、市民への周知が重要だと思うが、事務局の考えはどうか。

《事務局》

- ・ このビジョンについては、本日の策定委員会でいただいたご意見を反映し最終案として整理し、パブリックコメントを実施した上で年度内に策定する予定としている。
- ・ その後の公表については、市のホームページへの掲載や市の広報に特集記事として掲載し、広く周知をしたいと考えている。

《委員長》

- ・わかりました。

《委員⑤》

- ・先ほどの「仕組みの構築」ということに関連してだが、「仕組みの構築」はどれにでも当てはまることだと私は考えている。例えば、②居場所にある新図書館の整備についても、ハードを先に考えるのではなく、新しい図書館を建てることでどんな賑わいを生み出すのかといった仕組みを先に考えた方がいいのではないかと思うし、人を集める仕組み・にぎわいを作る仕組みと、人が集まり続けてわくわくするような仕掛けづくりを念頭に置いてからハードの整備を始めた方がいいのではないかと思う。
- ・観光や移動についても同様で、そこにどんな商店を集めたいか、どんな商店だったら観光客が喜んでくれるか、そういう商店街を作るために必要な仕組みは何なのかというソフトの部分を先に考えて、仕組みを構築してからハード面を整備するというのがいいのではないかと思った。

《委員長》

- ・大変貴重なご意見だったと思う。どちらかというと、これまではハードを作ればそれで人が集まり、それから使い方を考えるというようなことが多かったと思うが、ワクワク感が持てるような仕組みをきちんと構築した上でどういったハード整備がいいのかを考えていくという、そういう思考は非常に重要ではないかと思う。

《委員④》。

- ・ソフト面からしっかり構築していくということは非常に重要な考え方だと思う。一方で、目的をしっかりと明確にした上で考え方をどちらにするのかという取捨選択をしっかりとやるべきではないかとも思う。
- ・つまり、ハードが優先されて、そこに市民が命を吹き込んでいくというパターンももちろんある。施設の目的やスケジュール感をしっかりと考えた上でルート選択ができればいい。委員の意見は考え方としては非常に必要だと思うし、そこでどんな考え方を選択するのが大事なのではないかと思ったところ。
- ・広報に関して、先ほどオブザーバーからキャッチコピーを作って進めることは画期的だというお話があったが、全国各地でこのようなビジョンを策定してる中でも鶴岡の取組は画期的だということになれば対外的な広報のメリットも出てくると思うので、市の広報やホームページだけではなく、メディアも含めて対外的な広報の仕方というのも考えていただけると良いと思ったので意見として申し上げる。

《委員長》

- ・貴重なご意見ありがとうございました。皆さまからいただいたご意見を、次の中心市街地活性化基本計画にぜひ生かしていきたい。

《オブザーバー②》

- ・国交省でも、今後具体的な計画等を策定していく上で、ハード・ソフトを含めていろいろな面で支援させていただきたい。

《委員長》

- ・他にご意見はないか。（意見なし）
- ・熱心なご討議いただき感謝申し上げます。「できる うみだす あなたのまちなか」というキャッチフレーズについても、委員それぞれストンと腹落ちしたのではないか。今後はこのビジョンを具体的な形にしていくということで、次回以降の中心市街地活性化基本計画の策定に活かして参りたい。
（（２）その他：特になし）

- ・以上をもって本日の協議を終了する。

進行：事務局へ

《事務局》

- ・本日いただきましたご意見、ご助言を最終案に反映させていただき、今後の作業を進めて参りたい。

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて

《事務局》

- ・次第5番目のその他ということで、ご出席の皆さまから何かあればいただきたい。(なし)
- ・事務局から今後のスケジュールについて説明する。
… 事務局より、資料5について説明。…

《事務局》

- ・スケジュール等の説明について、ご質問等はないか。(質問・意見なし)

6. 閉 会

《事務局》

- ・長時間にわたりご協議いただき誠にありがとうございました。以上で第3回鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会を終了する。

以 上